

# 自立をふまえて（どの子ども共に生き，共に育つ）

～一人ひとりの実態をふまえた支援のあり方～

## I 主題設定の理由

近年，東山梨地区の特別支援学級数は増えているが，1学級の在籍児童生徒数は少人数化し，知的・情緒・肢体不自由・難聴・弱視と多様な障害にわたり，なおかつその程度も重くなっている。そのため，一つひとつの学級が抱える悩みは深くかつ多様化しているのが現状である。そして，在籍・通級及び特別に支援を必要としている子どもたち一人ひとりの障害の状況や発達段階，その特性に合わせた支援は，どの学級についても共通した重要な研究課題である。

そこで本年度も，授業実践・学習会・情報交換などを通して，児童生徒の理解と支援方法などを模索し，児童生徒一人ひとりの実態に合わせた支援内容，支援の方法に迫るべく本主題を設定した。

## II 研究の内容と方法

### 1 研究の具体的な内容と方法

- (1) 全体会や中部会ごとに講師を招いて学習会を行い理解を深める。
- (2) 中部会ごとにテーマを絞って児童生徒の実態を考えた教材研究を行い，個に応じた授業づくりをする。統一授業研では，指導助言者を招いて研究を深める。
- (3) 小部会ごとに情報交換や実践発表を行い，一人ひとりの児童の実態をふまえた効果的な支援のあり方を探る。
- (4) 小部会や中部会の研究内容について情報交換を行い共に学習を深める。

### 2 学習会の実施

- ・ 8月12日 全体会

岡輝彦先生（山梨県教育庁新しい学校づくり推進室副主幹・指導主事）

「一人ひとりの実態をふまえた自立活動のあり方」

- ・ 2月5日 中部会ごと

岡輝彦先生（山梨県教育庁新しい学校づくり推進室副主幹・指導主事）

「指導要録における評価について」

「落ち着いて学習に取り組むための支援の工夫について」

中込香代子先生（前山梨県教育委員会指導主事）

「特別支援教育担当教師の仕事について考える」

### 3 授業研究

- (1) 山梨市・甲州知的障害小部会授業研究

生活単元学習「買い物をしよう」

授業者 : 八幡小学校 渡邊 光章教諭  
指導・助言者 : かえで支援学校 伊波 美恵先生

(2) 自閉情緒・通常学級小部会授業研究

自立活動「ボールで楽しく運動しよう」

授業者 : 加納岩小学校 三枝 剛教諭  
指導助言者 : かえで支援学校 飯嶋多三恵先生

4 小部会研究

- (1) 山梨市知的障害小部会 (2) 甲州市知的障害小部会  
(3) 自閉症・情緒障害小部会 (4) 通常学級における特別支援教育小部会

III 成果と課題

1 成果

- (1) 学習会を年3回実施したことにより、自立活動のあり方・評価の仕方・授業づくり等について、児童の実態をふまえた支援について幅広い研修することができ、日常実践に役立てることができた。
- (2) 統一授業研に向けて中部会で共同研究したことで共に学び合うことができた。自立活動や生活単元学習を進める上で大切なことを具体的に研究することができた。指導案検討の段階から助言者に指導を受けることができた点も有効だった。昨年度から課題として出されている統一授業研をもつ時期について、見通しをもちながら進めることができた点もよかった。
- (3) 小部会研究では、児童の障害に合わせて研究を進めたことで、状況が似ているケースについて実践報告や情報交換をすることができた。どのような支援が効果的かを深く話し合い、日々の実践に活かすことができた。

2 課題

- (1) 夏休み明けの研究授業は、特別支援学級の児童にとって負担が大変大きい。そこで、昨年度からの引き継ぎで統一授業研の進め方を一年間検討してきた。その結果、来年度からは統一授業研を行う時期を2月に変更し、2本行うことになった。来年度は、今年度出さなかった三枝剛教諭のレポートを県教研にもっていく予定である。変更に伴い、次年度は学習会をもつ時期や情報交換や実践発表の時期のもち方も課題になってくると思われる。年間計画を立てて実際に進めていくなかで、改善を図っていきたい。
- (2) 特別支援教育では、一人ひとりの実態に合わせた支援を長期間継続していくことが大切である。そこで、県教研のレポートは、他郡市と同様に長期間支援を続けた結果児童にどのような変容が認められたかをまとめていくことの必要性が課題として出された。これまでは、統一授業研で研究した内容が中心であったので、研究授業の成果や課題も含めながら、長期間での取り組みもまとめてレポート作成をしていく方向で進めていきたい。

(部長 保坂 穂波)